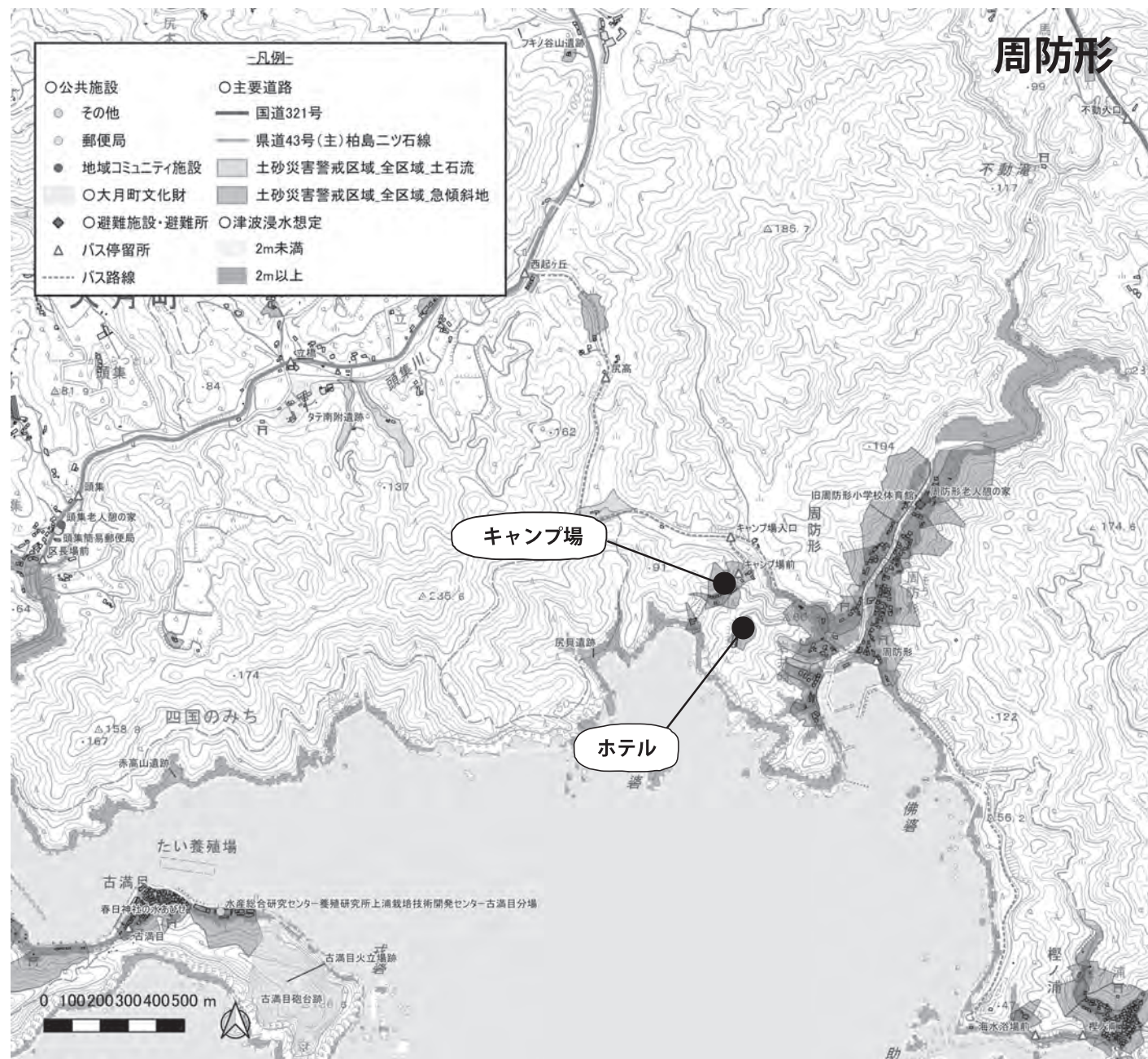




## 『事前復興まちづくり計画策定の流れ（予定）』

令和7年度以降も計画策定にあわせて、継続的に地区での話し合いの場を設けます。皆さまの意見をもとに、地区毎の復興まちづくり計画としてまとめていきます。

※以下は予定のため、今後変更になる可能性があります

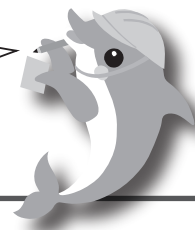
|         | 令和6年度                 | 令和7年度              | 令和8年度              | 令和9年度                |
|---------|-----------------------|--------------------|--------------------|----------------------|
| 計画策定の取組 | → 計画策定                |                    |                    |                      |
| 有識者委員会等 | ▼                     | ▼                  | ▼                  | ▼                    |
| 地区での検討  | 第1回（今回）<br>地区の状況を共有する | 第2回（仮）<br>復興目標を考える | 第3回（仮）<br>土地利用を考える | 第4回（仮）<br>地区での準備を考える |
|         |                       |                    |                    | パブリックコメント            |

### お問い合わせ

大月町役場 総務課 危機管理室  
〒788-0302 幡多郡大月町弘見 2230 番地  
Tel：0880-73-1140 Fax：0880-73-1380



大月町事前復興まちづくりの様子をホームページやInstagramで発信しています！ぜひフォローしてください！



# 大月町 事前復興 まちづくり かわら版

周防形

第1号

事前復興計画に向けた地区座談会を開催。  
地区についてたくさんの意見がでました！

2024年11月30日（土）16:00～18:00、周防形集会所にて事前復興計画に向けた地区座談会を行いました。

地区座談会では、地区にお住まいの皆さまで改めて地区の状況を共有することを目的に、まずは、被災後も残していきたい「地区の強み・魅力」、復興まちづくりに併せて解消したい「地区の弱み・課題」を出し合いました。

その後、「地区の魅力を伸ばす」「地区の課題を解決する」ためのアイデアを出し合い、最後に「復興まちづくりの方向性」を話し合いました。

今回の結果を踏まえ、来年度以降も地区での話し合いの機会を設けていく予定ですので、今回ご都合がつかなかった方を含め、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



令和6年度から8年度まで事前復興の取組として、沿岸18地区の皆さまと話し合いを行います。

大月町は東日本大震災後から続けている避難路整備を始めとした町民の皆さまの命、生活を守り繋げる「防災」の取組と併せて、令和5年度より、災害が発生した際にどのように町や地域を復興するのかを予め考える「事前復興」の取組を開始しました。特に、南海トラフ地震による津波で被害の発生が危惧される沿岸18地区において、令和9年度の計画策定を目標に、令和6～8年度までの3年間、地域の皆さまと話し合いをしながら、地区別に復興の形を一緒に考えていきます。



### 大月町役場 周防形の担当職員の紹介

令和9年度の計画策定にむけ、4名の町職員が地区担当職員として地域での話し合いを支援します。



地区座談会に参加した際に、地区の皆さんの熱量を受け、災害が起こった後でも再び周防形地区に帰って来られるように、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

皆さまと話し合った内容を  
2～4ページにまとめています。

## 自然環境が良い！

- 良さ**
- ・海、川、山、自然が豊か
  - ・水が豊富（水がきれい、海もきれい）
  - ・カワウソがいる
  - ・カマスがおいしい
- 課題**
- ・自然が多すぎる

## 観光資源や宿泊施設などがある

- 良さ**
- ・ダイビングができる会社がある
  - ・漁港がある
  - ・渡船がある
  - ・檜ノ浦のお遍路のルートになっている
  - ・渡船業者がある
  - ・喫茶店や商店がある
  - ・ホテル、キャンプ場がある
  - ・ホテルの経営が続けば災害時にも利用できるかもしれない
- 課題**
- ・釣り客がボート（サップ）で沖まで出てきて怖い
  - ・釣り客がゴミを捨てていく
- アイデア**
- ・産業を豊かにする
  - ・ポイ捨ての抑制のために防犯カメラや看板を設置する
  - ・ベルリーフやエコキャンをもっと利用する
  - ・観光客が地区にお金を落とせる仕組みを作る
  - ・街コンで周防形に人口を増やす

## 暮らしのこと

- 良さ**
- ・地区持ちの山がある
  - ・静かで過ごしやすい
  - ・どこにだれが住んでいるか知っている
  - ・みんなのつながりがある（仲が良い）
  - ・ほかの人の情報をみんなが知っている
  - ・年2回地区内や海岸の掃除をしている
  - ・正月おすし 床の間おみき
  - ・店も3軒あった（食料品などを販売していた）
  - ・移動販売が週に1回来る（何とか過せる）
  - ・60年前は畑が多かった
- 課題**
- ・空き家が多い（所有者は分かる）
  - ・地域を活性化させるリーダーがいらない
  - ・コンビニがない
  - ・郵便局がない
  - ・高齢者が多い
  - ・自分勝手に感じる人がいる
- アイデア**
- ・移住施策に力を入れ移住者を増やす（移住先進地に町の職員に研修に行ってもらおう）
  - ・新しい家でも使える補強とかの補助制度を町に用意してもらおう
  - ・若い人が住める場所を増やす
  - ・若い人が働ける場所を増やす
- 共働きができるような仕事の創出で移住者を増やす
- ・小さな会社をつくる
  - ・子育てがしやすい環境にする（公園など）
  - ・日ごろから足腰が弱らないようにみんな楽しく運動をする（自分で逃げられる体づくり）
  - ・ウォーキングコースとして整備
  - ・学校は大切に残していきたい（現在学校は老人クラブ、体操、お楽しみ会、年に1回大掃除をする14,5人）

## 防災について

- 良さ**
- ・避難訓練で、避難路の掃除を行っている
  - ・地区の防災意識が高い
- 課題**
- ・避難ルートの道がつぶれそう（雨の水が流れてきて歩きづらい）
  - ・避難場所が急勾配で心配
  - ・備蓄庫が心配
  - ・水害が怖い（川の氾濫など）
  - ・海が近いので津波が来る
  - ・耐震性が低い家がある（新しい家でも大きな揺れは怖い）
  - ・漁業者が多いが津波で船も流されてしまう
  - ・護岸工事をしているところに大きな木が生えてきていて怖い
  - ・春遠ダムが崩壊したら危険
  - ・地盤が弱い
  - ・家が崩壊した後立て直せる経済的余裕がない
- アイデア**
- ・自分で動いて逃げれる体力づくり
  - ・急勾配をゆるやかにする
  - ・砂防ダムの定期的な管理
  - ・山の木を管理してほしい（持ち主が不明な場所）
  - ・姫ノ井、清王の間につり橋をつける
  - ・避難路を再整備（広く、車でも通れるように）
  - ・高い場所へ広い道を
  - ・備蓄庫を増やしてほしい
  - ・避難住宅
  - ・避難路と避難所を結びつける

## 文化について

- 良さ**
- ・浜にやぐらをたててじゃんけん大会（担い手おらず）
  - ・秋祭りがある
- 課題**
- ・若い人がいない子どもは4人くらいなので、伝統行事が続けられなくなる
- アイデア**
- ・町全体で盆踊りなどの行事を手伝ってくれる団体があるとよい

## まちづくりの方向性

●このまま静かにダイビングできる場所でありつづける

●地域のまとまりを大切に

～助け合い復興して周防形に戻りたい～

- ・可能なら周防形に戻りたい
- ・元の位置に家を建て直したい
- ・町、集落全体で協力して今の生活に戻す
- ・災害の後でも周防形へ戻ってこれるように、日頃から元気に過ごせるように皆で集まって楽しく生きていく

～周防形で高台整備～

- ・集団で移転したい
- ・地区持ちの山がある



造成して住宅地をつくる  
（でも、住み慣れた今の土地を離れたくない）

